

第一日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2018 (平成30年) 7. 8

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

聖書と祈り会
毎週水曜日 10:30～
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「いつも喜んでいなさい」

(テサロニケの信徒への手紙一 [十])

牧師 松谷 祐二

テサロニケの信徒への手紙一 第五章二二～二三

兄弟たち、あなたがたに願います。あなたがたの間で労苦し、主に結ばれた者として導き戒められている人々を重んじ、また、そのように働いてくれるのですから、愛をもって心から尊敬しなさい。互いに平和に過ごさなさい。兄弟たち、あなたがたに勧めます。怠けている者たちを戒めなさい。気落ちしている者たちを励ましなさい。弱い者たちを助けなさい。すべての人に対して忍耐強く接しなさい。だれも、悪をもって悪に報いることのないように気をつけなさい。お互いの間でも、すべての人に対して、いつも善を行うよう努めなさい。

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。霊の火を消してはいけません。預言を軽んじてはいけません。すべてを吟味して、良いものを大事にしなさい。あらゆる悪いものから遠ざかりなさい。
(新共同訳聖書)

新約聖書に収められているもろもろの「手紙」には、終わりに近いところで、矢継ぎ早に「よしなさい」という命令調が続く段落がよく見られます。「そんなら一度に言わないで」という気持ちにもなりますが、これは当時としては普通の書き方なのだと思います。読んでほしが良いでしょう。キリスト者、教会のメンバーとしての生活の心構えを、より具体的に示してくれている部分です。

①教会の指導者を重んじ、愛をもって心から尊敬すること。パウロこそテサロニケ伝道のために労苦した人ですから、自分に対して尊敬を求めたと

しても、不当ではありません。しかし、パウロは他の人々のために——他の地域に移って伝道する自分に代わって、テサロニケの信徒たちを指導してくれた長老たちのために、このことを書きま

した。彼ら指導者の義務は、個人的な感情に従ってではなく「主に結ばれた者として」、自分の言葉を用いて主イエスが指導なさるのだという畏れと真剣さをもって、信徒たちを導き戒めることでした。彼らが横暴な権威主義者に墮せず、愛をもって働くことができるか。また、信徒たちが主イエスを愛するように指導者たちを愛し、尊敬して従うことができるか。どちらが欠けても、教会としては致命的です。事実、ここがうまくいかずに教会が混乱したり、分裂してしまったりした例は新約聖書自体の中にも多く見られますし、残念ながら今でもあるのです。そうなりますと、教会の中で互いに口もきかない、顔もまともに合わせられないというような関係が生じ、福音、救いの良い知らせを伝えるどころではなくなってしまう。「互いに平和に過ごさなさい」とは、切実な願いなのです。

②怠け、気落ち、弱さ、そうした状態に陥っている仲間のための適切な対応。教会メンバーの生活とは、端的に言えば共同の礼拝と祈り、学び、相互扶助と奉仕、そして伝道です。怠けようと思えばいくらでも怠けることができます。自覚的に心に向け、時間も労力も相応に捧げなければ、キリスト者としての生活を保つことはできません。迫害などに遭えば脱落してしまう人が出てきますし、そうでなくても、自分の生活上の困難な問題にぶつかっただけで、意気阻喪し、教会員として生活する意味を見出せなくなってしまうことがあります。主イエスに赦していただいた者は、罪を犯し続けてはならないのですが、「世間じゃこれぐらいは罪のうちに入らない」と自分に言い訳をして誘惑に負けてしまいます。昔も今も、わたしたちの問題は変わりません。主に結ばれた者としての、互いの戒め、励まし、助けが必要です。③教会内でも、教会の外の人々との間でも、すべての人に対して忍耐と善意を持つこと。自分に向

けられた悪に対しての復讐、報復を放棄すること。もちろん、犯罪を警察に通報したり、裁判に訴えて法の裁きに委ねたりすることは正当です。とはいえ、わたしたちは、自分に加えられる危害には冷静ではいられず、相手を貶めてでも強引にでも自分の正しさを主張したがるのが常です。それを、「すべての人に対して忍耐強く」、「いつも善を行うよう努め」よ、とは、何と難しいことでしょう。しかし、これこそ神と主イエス御自ら、わたしたちに対して貫かれている姿勢なのです。何という忍耐強い神、何という善なる主に、わたしたちは出会ってしまったことでしょう！

④いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝すること。これらはすべて、「キリスト・イエスにおいて」神がわたしたちに望みたまうことです。ただのポジティブ・シンキングではなく、主イエスとの結びつきゆえに、喜び、祈り、感謝することです。神が主イエスによってわたしにしてくださったこと、してくださっていることを熟考し、受け止め続けるときにのみ、そういう心が生まれます。それは、聖霊の働きによってのみ、可能になるのです。聖霊がわたしたちの心に留まって「火」を灯し続けてくださることで、神と主イエスとの恵みを、繰り返して繰り返して思い起こさせてくださることで、初めて可能になるのです。

では、その「霊」の火を灯していただき、消さないために、わたしたちはどうしたらいいでしょうか。「預言」——現代の表現で言えば、聖書の言葉と、それを説き及ぼす説教などの言葉——に耳を傾け、受け取ろうとすることが大事なのです。聖書も読まず説教も聞かず「過」し続けていると、わたしたちの心には他の言葉（思想、価値観）が響いてくるようになります。世の中には、積極的に吸収すべき、良いものがあるのも確かです。しかし、慰めになるようであり、神から遠ざかるような悪いものも蔓延しています。吟味が必要です。これら①④のパウロの願い、勧めの言葉を軽んじてはなりません。霊の火を消してはいけません。主イエスにあっていつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝することができるように…。

教会学校でのお菓子作り

柴田 マリ

五月十三日の母の日に、教会学校の小学科の子どもたちとお菓子作りをしました。「コーンフレーククッキー3種詰め合わせ」です。(写真) 今回はお母さんへのプレゼントなので、箱を用意して、きのこの砂糖菓子もせて華やかにしてみました。



小学科の子どもたちとお菓子作りはこれで四回目です。礼拝後の二十分間で作れるお菓子、電子レンジかホットプレートを使ってできるもの、という条件でのお菓子作りは、私も経験がなく、ネットで調べて、よさそうなものを作ってみては試食して、メニューを決めました。子どもたちが喜んでくれるような美味しいものを作りたいと、毎日がチャレンジです。

一回目は、電子レンジで三分でできる「カップケーキ」と、焼いてある「クッキー」にチョコレートペンでデコレーションしました。色とりどりのチョコペンを使いこなしてカラフルなクッキーが出来上がりました。

二回目は「みたらし団子」(写真) これは白玉粉と絹豆腐を同量混ぜた生地を子供たちが丸めて団子を作り、三分ポイルして出来上がり。ほどよい柔らかさでこれに自



家製のタレをつけると、買ったものより美味しいという評判でした。

そして、三回目のコーンフレーククッキーは材料のマシュマロ、バターをホットプレートに

入れて溶かしたところにコーンフレークをからませます。作っているとき、バターとマシュマロの甘い香りが広がって、「ディズニランドみたい!」と子どもたちは盛り上がりだしてしまいました。生地がやわらかいうちに丸めてできあがり。チョコとプレーンの二種類です。

四回日の母の日はそれに抹茶を加えて3種類にしました。

毎回二十人くらいで、礼拝が終わると目を輝かせて集まってきました。事前に時間配分を考えて準備をしておき、大人の手が必要なところは分担して手伝いました。なんとかそれぞれに自分で作ったお菓子を満足して持ち帰ることができてほっとしています。

大司さんをはじめ教会学校の教師の方たちには、いろいろとサポートしていただいたのでとても心強かったです。

今までは教会学校と関わる機会がなかったのですが、今回、準備をしながら幼稚科、小学科の礼拝の様子を拝見できました。子どもたちが静かに説教を聴き、しっかりと礼拝を守っている姿には感動しました。主の愛に満たされているのを感じました。教会学校との豊かな交わりの時間がもてましたこと、主に感謝いたします。

報告

*高橋優美子神学生は、この夏八月四日(土)から一か月、日本基督教団浅草教会(篠田真紀子牧師)で夏期伝道実習に遣わされることが決まりました。神学生のためにお祈りください。

*五月二十九日(火)、第七七回東京教区定期教会総会が開かれ、牧師と菊池役員が出席しました。通常の議案が可決されたほか、常置委員の半数が改選され、教団総会の教区選出議員が選ばれました。
*各献金(熊本・大分地震被災教会支援献金、東京神学大学後援会献金、隠退教師を支える運動、神学生を支える献金、会堂建築献金、オルガン献金)へのご協力を、引き続き宜しくお願いします。

《各部報告 六月度》

成人会

日時 六月十七日 主日礼拝会堂清掃後
場所 教会堂会議室
出席者 九名
開会祈祷 菊池才知子姉
内容 一、ホセア書 八章から十四章まで

B. C七五〇〜七二一年北イスラエル王国やロバアムの時代、ホセアに臨んだ神の言葉、神との契約を破り、偶像を铸造したことを挙げてイスラエルに警告を与えている。指示に従わず、他国との軍事同盟に頼っていることを糾弾している。十一〜十四 神の愛を忘れ去り神に立ち帰ることを拒んだのでアッシリア

に滅ぼされる。主の道に立ち帰れば、主の怒りは解け、イスラエルは繁栄する。
二、次回は、ヨエル書一〜四章
次回・七月十五日 司会は木村信太郎兄
開会祈祷 黙祷

婦人会

日時 六月二十四日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 八名
開会祈祷 菊池才知子姉
閉会祈祷 全員順次小祈祷
内容

一、聖書研究 「ヨシユア記」 抜粋
十八章一〜十節、ルベン族、ガド族、ユダ族、マナセ族、エフライム族の領地が確定した後、シロに集結したイスラエル人は臨在の幕屋を設置した。ヨシユアは主の前でくじを引き、割り当てに従って土地を配分した。
十九章四十九節〜二十章、土地の配分が終わると人々は主の命令によって、ヨシユアが求めた嗣業の土地を贈った。ヨシユアは町を建ててそこに住んだ。与えられた土地で主のみ旨に適う生き方を述べている。
二十一章一〜八節、レビ人の生活手段の保障。二十一章四十一〜四十五節、レビ人の町と放牧地、先祖の神を崇拜し、主のみ言葉に従って生活する原点上に立ち帰るならば、嗣業の地で平和と繁栄がもたらされる。

次回 七月二十二日 「ヨシユア記」 二十二章、八月 二十三、二十四章
二、長らく礼拝に出席できない、体調不調の姉妹達に関する情報交換。
三、讚美歌について情報交換